

2020年（令和2年）11月2日

介護の特定技能で初 カンボジア人を採用

北海道・黒松内つくし園



業務に就くカンボジア女性

北海道後志^{しりべし}地方の社会福祉法人「黒松内つくし園」（大代貴輝理事長）は2019年創設の外国人在留資格「特定技能」でカンボジア人の女性4人、男性1人の5人を採用。10月22日に法人内で辞

令交付式を行った。法人によると、介護分野でカンボジアから特定技能外国人の入国は国内で最初だという。5人は、すでに法人が連携するカンボジアの大学で介護と日本語の評価試験に合格し

ていたが、新型コロナウイルスの影響で当初の予定より4カ月ほど遅れての来日となった。同日の辞令交付式では法人のグループホームに配属が決まったシラク・スレイペツさんら5人が、それぞれ

日本語で自己紹介。「しっかりと頑張ります」などと決意を述べた。これに対し大理事長は「皆さんは特定技能としてカンボジアから入国した日本で最初の人たちです。一生懸命勉強した成果を発揮してください」と激励した。

外国人を採用。19年には、ベトナムから6人の技能実習生を受け入れるなど、外国人材を積極的に受け入れている。実習生は専用の宿舎で共同生活する。寝具やテレビなど宿舎の備品は法人で用意し、自転車や携帯電話は法人が貸与する。

同法人では制度への理解を深めた上で、役員が互いの文化や生活を学ぶため、数回にわたり現地に足を運び、直接面接などを行っている。今年はこのほかカンボジア人3人を含む9人の外国人の来日も予定しており、大理事長は「社会福祉法人での先駆的な取り組みとして教育や研修などを重ね、モデルケースとなるようにしっかりとやりたい」と話している。

（北海道支局）